

2022 年度 (令和 4 年度) 学校評価自己評価表

東	中学校区	校番 6	福山市立手城小学校
最終更新日			2022年(令和4年)4月1日

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力、表現する力、自他の尊重
前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識する力、自己決定する力、表現する力をもった子
・中学校区で課題を的確にとらえ、目標を共有し、授業改善に取り組んでいる。	・考えや思いを伝え合うコミュニケーション能力や相手を思いやる心が育ちつつある。 ・自ら課題を発見し、解決しようとする意欲に課題がある。	中学校区として統一した取組等	4つの部会での連携を通して、取組の「質」を求め、「実」を追求する。 ①授業改善部会 ②長期欠席者ゼロ部会 ③E S D教育推進部会 ④特別支援部会

III 自校		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 課	表現する力 表	自他の尊重 尊
ミッション		めざす子ども像	低学年	相手の考えを知って自分の考えと似ているところや違いに気づき伝え合うことができる。	自分のよさを知り、人によって感じ方に違いがあることにも気付く。
学校教育目標			中学年	具体的な根拠をもとに考えを伝え合うことができる。	互いの特徴を認め合い、自分と異なる考えも大切にす
現状			高学年	伝え合いを通して、互いに考えを調整しながら、よりよいものに行き届くことができる。	互いの意見や立場を尊重し、違いを生かしてよりよいものに行き届く
学校教育目標		研究	テーマ	自他を認め合い、主体的に生きる力を育成する道徳教育 — 「学び合い」を通して —	
現状		研究	内容等	「学び合い」を通して、自他を認め合い、主体的に生きる力を育成する授業づくりを研究していく。	
めざす授業の姿		めざす授業の姿			
<!○成果 ●課題 ○自他を認め合おうとする態度が育ちつつある。 ○落ち着いた学習や生活ができるようになっている。 ●主体性や自己肯定感に課題がある。 ●表現する力(話す力や話し合う力)に課題がある。 <教職員> ○授業改善をしようとする意欲がある。 ●主体的な学びを実現するための授業力に課題が見られる。 ●学力向上や自己肯定感を高める取組が不十分である。		・児童が主体的に学ぶ授業 ・話す力と話し合う力を育成する授業 ・「ほめて、認めて、励ます」指導をする授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	学びを楽しみ、深める児童を育成する	★	新規	【道徳教育】《尊》 ○授業で、「ほめて、認めて、励ます指導」を行うことで、学びを深める。	○すべての授業において、児童の学び方のよさを「ほめて、認めて、励ます」指導をする。（教職員の回答100%）	○「先生は自分のよいところを認めてくれる」と回答する児童90%以上									
			新規	【主体的な学び】《課》 《表》 ○主体的な学びを追求する手城版「授業モデル」を全教室で行う。	○手城版「授業モデル」に沿った授業を行う。（全学級：60%以上の授業）	○「友達と考えを交流することで、学びが深まった」と回答する児童90%以上									
			新規	【基礎学力の定着】《課》 ○朝の帯タイムに、学力調査結果の課題に応じた学習を行う。	○朝の帯タイムに、学力調査結果に基づいた内容の繰り返し学習等を行う。（週2回）	○学力の調査結果で市平均以上 ・「全国学力・学習状況調査」 ・学力の伸びを把握する調査 ○学期末のまとめのテスト（全学年 国語・算数：全国平均以上）									
			新規	【体力向上】《尊》 ○「ほめて、認めて、励ます」指導で、体力向上を図る。	○体育の授業、体育的行事において、児童が主体的に学習する場面を設定し、主体的な姿を「ほめて、認めて、励ます」指導をする。（教職員の回答90%以上）	○体力テストの結果が、昨年の課題の項目2つ以上が全学年でUP ○体育的行事後、主体的に取り組んで楽しかった」と回答する児童90%以上									
3	よりよい生活を考え、行動する児童を育成する【SDGs】	★	新規	【プロジェクト活動】《課》 ○主体性を育む児童会活動・学級活動を充実させる	○6年生：委員会活動でプロジェクト活動を行う。 ○1～5年生：学級の係活動や学校全体でプロジェクト活動を行う。（全学級）	○学校や学級がよりよくなるための取組を考え、実践することで、やりがいを感じたと回答する児童90%以上									

1	夢や志を抱く児童を育成する【SDGs】	新規	<p>【手城100人教育】《尊》 ○夢や志を抱く心情を育むため、地域の人財を活用した授業を行う。</p> <p>○地域等の人財をゲストティーチャーとして招聘する。(本年度：年間60名以上)</p> <p>○「将来の夢や目標をもっている」と回答する児童85%以上</p>																	
3	元気に児童と向き合う学校にする	新規	<p>【元気と笑顔の学校】 ○全校で児童理解を図り、元気に児童と向き合う学校にする。</p> <p>○児童理解が進み、生徒指導上の諸問題を減らすための暮会(「子どものよさを語る会週2回3分程度)をする。(年間80%の暮会) ○全教職員が全児童の担任という意識を高めるため、児童の氏名を覚える。(教職員回答：平均50%の児童の名前を覚えた)</p>	○時間外勤務を月45時間以内100%																

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。